

令和6年度第1回夜間中学設置支援委員会(R6.7.19)における主な内容及び意見

講演:熊本県立ゆうあい中学校 校長 小原ひとみ氏

○設置基本方針

- ・設置場所:熊本県立湧心館高等学校(定時制高校)
- ・入学要件:
 - ①熊本県内在住の15歳以上
 - ②義務教育を修了していない方
 - ③様々な理由により十分に学ぶことができなかった方(国籍問わず)

○学校の概要

- ・教育理念:誰一人取り残さない一人一人が輝く未来への学び舎
- ・校舎:南阿蘇村応急仮設住宅の建築資材を再利用
- ・生徒の状況:35名、うち外国籍8名 オンライン生11名
- ・教育課程:

中学校の教科等に加え、日本語指導を週6時間
年間授業時数700時間
国、数、英はコース別の習熟度別指導



協議:課題1 設置場所

「どのような視点で夜間中学の設置場所を検討すればよいか。」

- 他県の状況を参考にすると、設置コスト及びランニングコストの面から考えても、既存の施設を活用することが考えられる。
- 公共交通機関でアクセスしやすいところや、わかりやすい場所にあるという視点も必要ではないか。
- 車で登校するとなると駐車場を確保する必要もある。
- 目標を持った方は、自転車や徒歩など時間がかかっても来る。夜間中学の場合、終わる時間が21時頃になるとバスがないことも考えられる。
- オンラインの授業を実施するとなれば様々な設置場所が考えられるとは思いますが、現状では、オンラインで授業を受けても中学卒業とはならない。そう考えると、通いやすい所であるとよい。
- 熊本の話聞き、既存の施設活用と利便性というのは必須の条件のように思う。そう考えると、定時制がある県立学校に設置するということも考えられる。
- 公共交通機関によるアクセスに加え、ユニバーサルデザインの視点も必要ではないか。このような視点から、県立の定時制や特別支援学校を活用することも考えられる。

協議:課題2 入学要件

「どのような方を夜間中学の入学対象者とするか。」

- 広く入学要件を設定してもらえると、就労前段階の方々にとって、文字の学び直しや様々な方とのコミュニケーションを学ぶことにつながる。
- 入学要件を広げすぎても焦点を当てづらいこともあると思うので、高校を卒業している方は、夜間中学の対象から外れてもよい。
- 高校や大学の卒業資格があっても、学び直しの場があるとよい。
- 現時点でどれくらい夜間中学のニーズがあるかはわからないが、段階的に入学要件を広げていくことも考えられる。
- 設置する夜間中学は、公立の学校であり、法律に基づいた学校である。一般的な中学校と同等と考えると、入学要件は絞られるべきではないか。公立中学校として開校し、運営し、生徒に卒業資格を与えるのであれば、一般的な高齢者の学び直しは民間で担うべきではないか。
- 外国籍の方が夜間中学で学ぶことができれば、日本の中学校を卒業して高校に進学するというステップを踏むことができる。
- 高齢者については、この先、人数が減っていくことが予想される。若い方の需要を見込むのであれば、その方々のニーズにも応えられる学校づくりをしていく方がよいと考える。